

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「今までの生活に近い環境をつくりだす。「顔なじみの人たちとの関わりを大事にする事」など、地域の中でその人らしく暮らし続ける事を支えていくという思いを継続して取り組んでいる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人職員に必ず理念の説明を行っている。 月1回の職員会議で理念の実践に向けて日々の取り組みを反省しサービス改善を行うように職員間で話し合っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	年1回家族会実施。また、ご家族に毎月のホーム便りを送付している。季刊誌はホーム長会議で検討し、統括部長を中心に作成している。	
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣で日常的な買物ができることから、買い物中に顔見知りの人と声を掛け合っている。散歩をしている時には、お互いに声の掛け合いをし、立ち話をしたり、花をいただく事がある。また、時々近隣の方からいただき物をする事もある。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として自治会で行われる盆踊り、バーベキュー等に参加している。集会所で行われた凧作りに入居者と共に参加し地域の方や子どもたちと触れ合う事ができた。また、自治会の総会に参加し地域の方々と交流が持たれた。職員は地域活動として草刈等に参加している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	資格や色々な経験を持った職員がいる事で地域の役にたてるよう 運営推進会議で呼びかけている。 実習生、ボランティアの受入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を踏まえ、職員会議で入浴改善の検討を行い実践している。 自己評価をケアの振り返りとサービス向上の良い機会と捕らえ、職員と話し合いながら進めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はおおむね2カ月に1度、入居者、家族代表、民生委員、自治会長、行政等で開催し、ホームの取り組み、状況内容等の報告を行っている。その中で、いろいろな意見や検討事項がある。検討内容についてはホーム長会議でも経過を報告し、話し合って改善に向けて意識の統一を図っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に、統括部長が入居者やホームの課題を市の担当者に報告する事で協議したり、時には助言も受けている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を持っている。職員会議の勉強では、作り直した資料を基に、職員にも説明、配布している。統括部長が会議の場で身近な例で本質を分かりやすく説明、理解してもらうようにしている。	○	知識を深めるために、今後も成年後見制度や権利擁護について学ぶ機会を得たい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修に参加し学ぶ機会を持った。また、人権や虐待の本質に触れ、職員会議で分かりやすい説明と年2回の自己チェックを行い、振り返りの機会としている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	統括部長が主体となって相談、受付、入居までを担っている。今年の4月に3名の入居があり、契約時は統括部長が契約書の内容等を分かりやすく丁寧に説明を行い、ホーム長同席で、契約を行う。新規時は現場には予め、情報を提示し現場の意見も聞きつつスムーズなサービス利用に結び付けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者から職員に苦情、意見を受けた場合は、管理者、職員は本人の思いや意見を入居者の立場になって考えている。また、職員間で情報を共有し改善や解決に向けている。苦情の内容について職員で検討した結果を運営推進会議で報告し、意見をもらうように努めている。	○	入居者全体の環境から意見が改善できない部分もあるが、職員間で情報を共有し、本人の気持ちを大事にして改善につなげる。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態は、状況によって家族に随時報告を入れている。また、毎月のお便りでホームの様子をお知らせしている。金銭管理については、以前、1名の方が家計簿を付けていたが入院を機にレベル低下となり、現在は金銭管理はしていない。職員の異動は月1回のお便りや家族の来所時に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回の家族アンケートを無記名で行い、法人返信で記入者が特定できない形式で行っている。総括部長が集計を行い、各ホームへ全て報告し、サービス改善につなげている。また、運営推進会議で報告している。不満や苦情、要望等はミーティングや職員会議で情報を共有しケアプランに反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや職員会議で、提案、意見交換の場を持ち、一人ひとりの意見や、提案が出せるように、努力をしている。全ての把握は困難であるが、意見が言えるように努めている。	○	ミーティングや職員会議で意見が言えるような環境を整える。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務体制は入居者の状態に応じて柔軟に対応ができるように努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間はユニット間での異動はなかった。また、ユニット間では、なるべく異動はしないように努めている。離職者があった場合には入居者に不安を与えないように対処していきたい。新人職員が入った時は、入居者一人ひとりにきちんと紹介している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会は可能な限り確保し、職員の資質向上を図っている。個々の状況に応じた研修の確保を考慮している。研修はパート職員を問わず、全員が参加できるようにしている。研修報告は職員会議で報告し、共有できるようにしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームのホーム長が、月1回の集まりで情報交換をしている。その場に統括部長が出席し、各ホームへ情報を伝達している。今年6月に市内の各ホームとの交流会があり、サービスの質を向上させる取り組みにつなげている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の疲労がストレスとならないように休憩時間は横になれる休憩室を確保している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則に沿って職員の労働条件を守っている。また、心身の健康を保つ為、健康診断を実施している。研修参加は勤務内に参加できるように調整している。また、職員には資格取得に向けた支援を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	統括部長が主体となって相談、受付、入居までを担っている。また、現場には予め、初期のアセスメントとして情報を提示し、入居者の 精神的負担が軽減され、落ち着いてケアサービスが始められるようにしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	統括部長が主体となって相談、受付、入居までを担っている。また、現場職員に助言している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	統括部長が主体となって相談、受付、入居までを担っている。相談内容により、他のサービスを紹介したり、他のサービスの利用につなげている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	統括部長が相談、受付を担っている。入居予定者の自宅に管理者と事前訪問し、情報の共有や体験入居を経て段階を追う事で徐々に 馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から「手伝うから、あんたは違う仕事をしんさい」と、日々の暮らしの中で助けていただいている。また、一緒に台所で調理をする時「この切り方より、この方が味がいい。ナスのヘタを取る時はここを切るといい」など入居者に教えてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に日々の暮らしのできごとについて、大まかに状況をお伝えする事を心がけている。その際、家族の気持ちを察する事で共に支援できるように努力している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族と一緒に誕生日のお祝いができるように声を掛けているが、遠方の方の参加は難しい。毎月のお便りでは外出等の写真を載せている。また、お便りには、本人の直筆、担当からは近況報告をお知らせしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者全員ではないが、馴染みの人や友人が訪れている。また、行きつけの理容、美容院に行き続けている入居者には、継続的な交流ができるように支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握した上で孤立しないように気配りをしている。その日の心身の状況や気分、感情で難しい面もあるが、すぐに介入するのではなく、その場の雰囲気を感じて入居者同士の関係がうまく行くように努めている。	○	お茶の時間等、職員は入居者と関わりを持ち、メリハリのあ る生活を心がけ、入居者が孤立しないように入居者同士の 関係や個性を上手に引き出す工夫を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後の継続的な関わりはできていないが、相談があればいつでも応じていく準備は整っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティングや職員会議などで情報の共有を行う事で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添えるように本人本位に検討している。職員は日々の暮らしの中で入居者の表情、体動、言動等から一人ひとりの希望、意向の把握に努力しているが、十分とは言えない。希望、意向が困難な入居者へは家族を交えて検討している。	○	入居者の言葉や、言葉にしづらい思いを日々の行動から汲み取る。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の基本調査票、家族や本人との会話の中から把握するように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとり、生活の流れの中で本人のできる事を職員は把握している。得意分野を活かされるように声かけをしているが、気が進まないこともみられる。しかし、時間を置いて声をかける事で一緒にできる事もある。声かけのタイミングの難しさを感じている。	○	日々の生活の中でどのような声かけをしたら、入居者のプライドを傷つけずに職員と一緒に台所に立っていただけるかをミーティング等で話し合っている。また、限られた入居者だけの声かけではなく、ホール全体の流れを見て声かけを行うように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で入居者の思いや意見を聞き反映させている。その事をふまえて、家族と一緒に担当を中心として介護計画を作り他の職員の意見を出し合って介護計画を作成している。	○	介護計画に参加できない家族には電話やお便り等で介護計画作成に努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しに努めている。また、一ヶ月評価を実施している中で、入居者の状況に応じ本人、家族の意見等をふまえて課題となることを職員間で検討を行い、介護計画の作成に活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子や本人の言葉、身体的状況等の記入はできている。介護計画に沿っての実践、結果の記録はできつつある。毎日のミーティングで情報を共有し、次の介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、受診等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて民生委員、ボランティア、警察等に協力を働きかけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の身体状況から訪問理美容を利用できるよう支援している。家族(1名)から「父が歩けなくなるのではと思っている。父の不安を無くしたい」とデイサービス利用について相談を受けている。家族で話し合った結果の連絡を待っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加する事で、ケアを行う事や関わり方などの助言をもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によって主治医を決めている。9名の入居者に対して主治医は2名(かかりつけ医継続)協力医5名(5箇所)1名の入居者は定期的にかかりつけ医に職員と共に受診を行い、職員は身体、生活の様子などを主治医に詳しく説明している。緊急時には適切な指示が得られるように状況に応じてかかりつけ医に身体状況の報告を入れ指示を仰いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の協力医(松ヶ丘病院)はもとより、認知症に対する理解のある内科医(松本医院)がある為、定期受診の際には認知状況に関する情報を伝えている。情報を伝える事で認知症についての指示や助言をもらっている。また、気になる変化等を相談する事で、適切な診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を確保している事で普段から気軽に相談できる関係ができており、入居者の状況を報告している。また、ホームの看護師が不在の時はかかりつけ医の看護師に電話で相談をしている。相談内容によって指示や助言を受けている。職員は日々の暮らしの中で判断が決めにくいこともみられる。	○	職員で安易な判断をせず、看護師に報告を行う。また、研修や勉強会等で職員の判断、対処能力を向上させる。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院関係との情報交換や相談に努めている。入院時には、職員が見舞うことで入居者に安心感を持っていただくようにしている。また、状況に応じて家族と連携を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う終末期について、家族の安心と納得を得られるように状況に応じての話し合いを持っている。毎月の職員会議でターミナルケアについて、知識を得るようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族に安心と納得を得られるようにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	○	毎月の職員会議でターミナルケアについて勉強の時間を持つ事で知識を得る。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	統括部長が中心となり、本人、家族と十分な話し合いを行っている事で、住み替えによるダメージを防ぐように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修で入居者の尊厳、権利について学んでいる。 職員は個人情報保護法の理解に努めている。 一人ひとりのプライバシーを損ねないように、職員は声かけや対応に努めているが、日々暮らしの中で難しい事もある。	○	入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりの判断力に合わせた、声かけを行っている。 職員側から入居者に押し付けるような事はせず、その場その場によって入居者の表情を見て自己決定ができるように努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思を尊重し、嫌な事は入居者に押し付けず、状況判断で柔軟に対応し、希望に沿うように努力している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみについては本人主体に整えるようにしている。入浴後の服装は入居者に選んでいただけるように努めている。 理容(2名)・美容(2名)は希望に沿って行きつけの店を利用し、散髪、パーマ、髪染め等をしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みの食事作りは十分に対応できていないが、入居者が食べたいと言われた料理は作っている。体調の悪い入居者へは「お粥」など作って少しでも食べていただくように努めている。職員は声かけに工夫をしながら、調理・配膳などではできる範囲で一緒に行い、職員は同じテーブルで入居者と共に、和やかに食事を摂っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりに、日々の会話の中で食べたい物を聞いて、食べたいと言われたものは、入居者と買物に行った時に買っている。また、おやつは入居者の意向を取り入れたり、時には手作りおやつを一緒に作っている。お酒の好きな入居者からお酒、梅干、いりこなどを頼まれ購入している(居室で少量飲まれている)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1名の入居者は2人介助でトイレ誘導を行っている。本人から「トイレに行きたい」と言われた時は速やかに気持ちよく、トイレで排泄ができるように支援している。また、紙パンツを使用していた入居者(1名)は布パンツに替えて、必要に応じてトイレ誘導を行っている事で、排泄の失敗がないように努めている。尿瓶、ポータブルの洗浄は常に心がけている。	○	布パンツを検討している入居者(1名)の家族に相談する事と本人に説明を行う事で、紙パンツ使用をなくしたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望に合わせた入浴時間、曜日等は難しいができる限り入浴が楽しめるように時間等の工夫をしている。入居者の重度化に伴い職員側の都合となっているが、できるだけ本人の意向に沿ってゆっくり入浴していただけるように努めたい。	○	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動の中で、入居者自身がその時の状況によって自由に休息している。 足に浮腫が見られる入居者には昼食後、自室で休むように声をかけている事で足の浮腫が違っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の力を活かした調理、洗濯たみ等はできる限り職員と一緒にしている。日々の暮らしの中で楽しみは個々で違うが入居者の希望で「ドライブに行きたい」と言われた時は、「入居者同士」の誘いがある。日原に行ってお寿司を買ったり、留守番の入居者にお土産を買ったりと、目的を持ってのドライブを心がけている。職員は限られた入居者の声かけでなく、身体状況から判断をしている。	○	一人ひとりの要望にこたえられるように努力したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる入居者は小額のお金を所持している。買物に出かけた時には本人の財布から支払いができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者に声をかけ、できる限り散歩、買物、ドライブに出かけるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人ひとり、普段行けない場所への支援は十分ではないが、家に帰りたと言われる入居者は職員と共に自宅訪問を行っている。家族と一緒に外出した時はスーパーで買物をしたり、昼食を共にされている。また、東京から帰られた家族の方(1名)はグラントワや水族館(アクアス)に行かれている。	○	少しでも本人の思いが実現できるように努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけたいたり、取り次ぎもしている。手紙のやり取りは現状では難しいが、年賀状は2名の入居者が出されている。毎月のひなたぼっこ便りには、ご本人に一言書いていただいている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	他の入居者に気兼ねなく、部屋でゆっくり話ができるように心がけている。また、面会の家族によっては食堂で他の入居者と共に会話を楽しませている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束の勉強会は実施されている。「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に出入りができるように玄関、勝手口等の鍵はかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はさりげなく入居者の行動を把握するように努めている。無断外出のおそれがある入居者はその日の朝の言動で把握でき、いつでも対応できるようにしている。夜間については状況に応じての見守り、確認を行っている	○	無断外出に気づく事で日々の安全に努める。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	すべてを取り除くのではなく、家庭で必要なものは自然に置かれている。以前は裁縫箱に入っている針を、きちんと裁縫箱の中に返されていたが、元に戻すことを忘れるようになられた事から針の管理している。注意が必要な物品は入居者一人一人の状態に応じた対応をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットに関する報告書、記録はできている。職員はミーティングや会議で事故の発生について、検討を行い、次の事故防止につなげている。事故が起きた場合は家族への説明と報告を行い、益田市に事故報告書の提出を速やかに行っている。	○	事故の再発防止について職員間で入居者の危険性を再度認識し、事故防止に努めたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救急救命講習を受けている。全職員が受講できるように2年に1回の救急救命の受講を受け、緊急時に慌てずに適切な対処ができるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力が得られるように民生委員を通じて呼びかけている。消防署の協力の下、年1回の避難訓練、消火器の使い方等を実施している。	○	自然災害時の避難訓練を実施する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	心身状況の変化については、家族に随時連絡を入れている。予測されるリスクについては日々職員で話し合っている。また家族にはリスクの説明を行っている。	○	リスクはあるが、今後も検討を重ねて自由な生活を大切にしたい。
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの普段の摂取量や顔色等の表情に変化がある場合はバイタルチェックを行い職員は情報を共有している。いつもと違う変化がみられたら看護師に報告し、状態を見てもらっている。看護師、職員は状況に応じて主治医に往診及び指示を得ている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを整理し職員はいつでも内容の確認ができるようにしている。服薬時は必ず本人が服用したかの確認を行っている。薬の処方等の変更は記録、連絡帳で職員の共有に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防と対応の工夫は特にしていないが、散歩、買物、家事等で体を動かす事で自然排便を促している。下剤を使用している入居者へは排便の状態によって主治医と相談の上、服薬調整を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの重要性を職員は理解しているが、本人任せになっている入居者への毎食後の口腔ケアはできていない。口腔ケアの介助が必要な入居者へは本人に合わせて支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量はチェック表をつけ職員間で共有を行い、食事水分等は一人ひとりの状況に応じて支援している。特に夜間、発汗が見られる入居者には水分摂取を心掛けている。食事に関しては栄養士から専門的アドバイスをもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてはマニュアルに沿って、その季節に応じて職員会議で再確認を行い予防・対策に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板は陽の当たる場所に置き、台拭きのフキンは汚れた状態によって常に漂白している。食器乾燥機を使用しフキンは使用していない。冷蔵庫の掃除は職員間で担当を決めている。買物については、随時買物に行き、買いだめはしないように心がけている。又、冷蔵庫の食材は日々点検を行い安全に無駄なく使用している。(台所マニュアルに沿っている)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	県道、建物周囲に看板を設置し、ホームの場所が分かりやすいようにしている。また、玄関入り口には花壇を作って花を植え、自然な形で季節感を味わっていただけるように心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた空間の中で入居者全員が居心地よく過ごしているかどうかは分からないが、庭に咲いている花や職員の家に咲いている花を持参し、食堂のテーブルや玄関、居室に飾って季節感を感じていただくように努めている。また、食堂からは日本海を眺める事ができ、「今日は海が風ぎだね。船が出ているよ。何が取れるかねえ」など会話の中で自然に季節感を感じるように心掛けている。	○	車椅子移動の入居者から動きにくいと言う声があり、家具の配置換えをした。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士、仲の良い人は同じソファで会話をされている。一人で過ごす事が好きな入居者は食堂の肘掛椅子に座って過ごされている。独りになれる空間はスペースから難しいが、ソファの位置を換えたりして思い思いに過ごせるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり、思い思いの家具を持ち込まれて、家族の写真を飾ったりして、居心地よく過ごせるように工夫をしている。半数以上の入居者は信仰心が篤く、仏壇、神棚等を居室に置かれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の窓を開け、換気に心がけている。外気との温度差がある時は入居者の状況によって冷暖房の調整をしている。できる限り自然の風を入れるようにしている。	○	今後も、居室に匂いがこもらないよう入居者と共にこまめに窓を開け、換気に心がける。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂からの出入りに手すりをつけた事で安全に出入りができるようになった。手すりをつけた事で入居者はスムーズに歩く事ができている。また、椅子から立ち上がりの困難な入居者は肘掛け椅子を使用する事で立ち上がりが自立している。できる限り一人ひとりの安全確保と自立した生活が送れるように努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	指先に力の入らない入居者(1名・本人、家族了解の下)には、タンスの引き出しを少し開けておく事で排泄の失敗時に下着のはき替えができるようにしている。また、タンスに衣服の種別を貼っている事で、本人が洗濯物を入れる際わかりやすく、入浴の準備などがしやすいようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関を回らなくても、食堂から出入りができるようにスロープと手すりをつけ、一人ひとりの身体機能にあわせて、天気の良い日は庭に椅子を出し、庭の花を眺めながら日向ぼっこをしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		○	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ごく普通の住居をグループホームとして改修し一般の家とかわらない環境のもと、限られた空間の中で職員は日々工夫を行い、利用者と共に生活をしています。